

令和6年における交通事故 の発生状況について

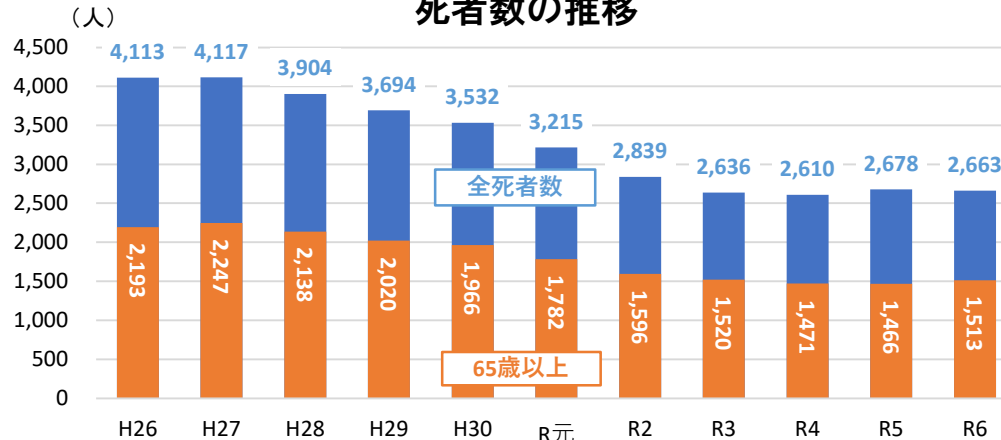
令和7年2月27日
警察庁交通局

- (注)・本資料は、令和7年1月30日までに入手したデータにより作成したものである。
・数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

1-2 交通事故発生状況の推移(65歳以上の死者数・状態別死者数)

- 65歳以上の死者数は1,513人で、前年比47人、3.2%増
- 状態別では、「自動車乗車中」が増加、「歩行中」、「二輪車乗車中」及び「自転車乗用中」は減少

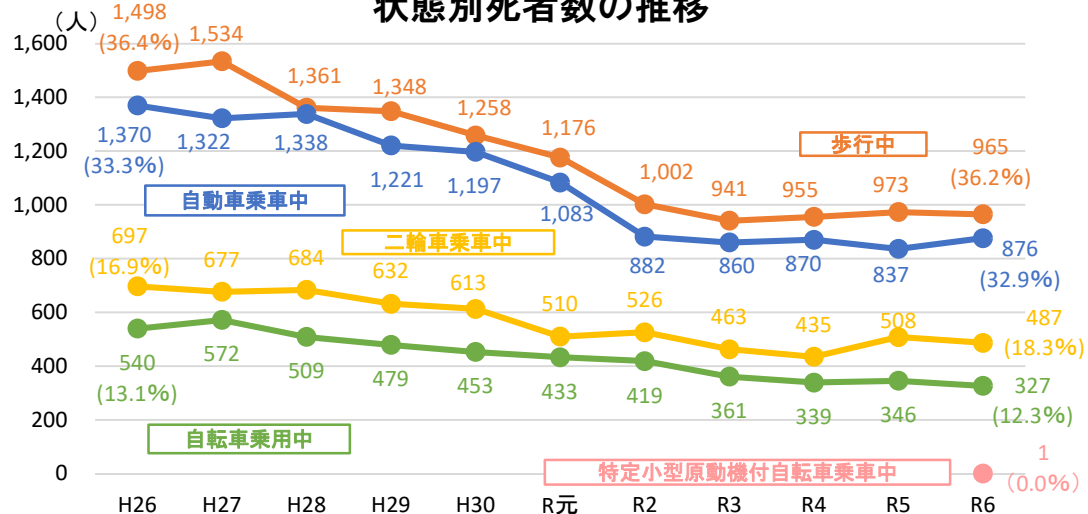
死者数の推移



65歳以上の構成率	53.3%	54.6%	54.8%	54.7%	55.7%	55.4%	56.2%	57.7%	56.4%	54.7%	56.8%
高齢者の人口(千人)	32,999	33,866	34,590	35,151	35,580	35,884	36,027	36,213	36,236	36,224	—
全人口に占める高齢者の割合	26.0%	26.6%	27.3%	27.7%	28.1%	28.4%	28.6%	28.9%	29.0%	29.1%	—

(注) 人口は、総務省統計資料「人口推計」(各年10月1日現在人口(補間補正を行っていないもの。ただし、国勢調査実施年は国勢調査人口(不詳補完値)による。))による。

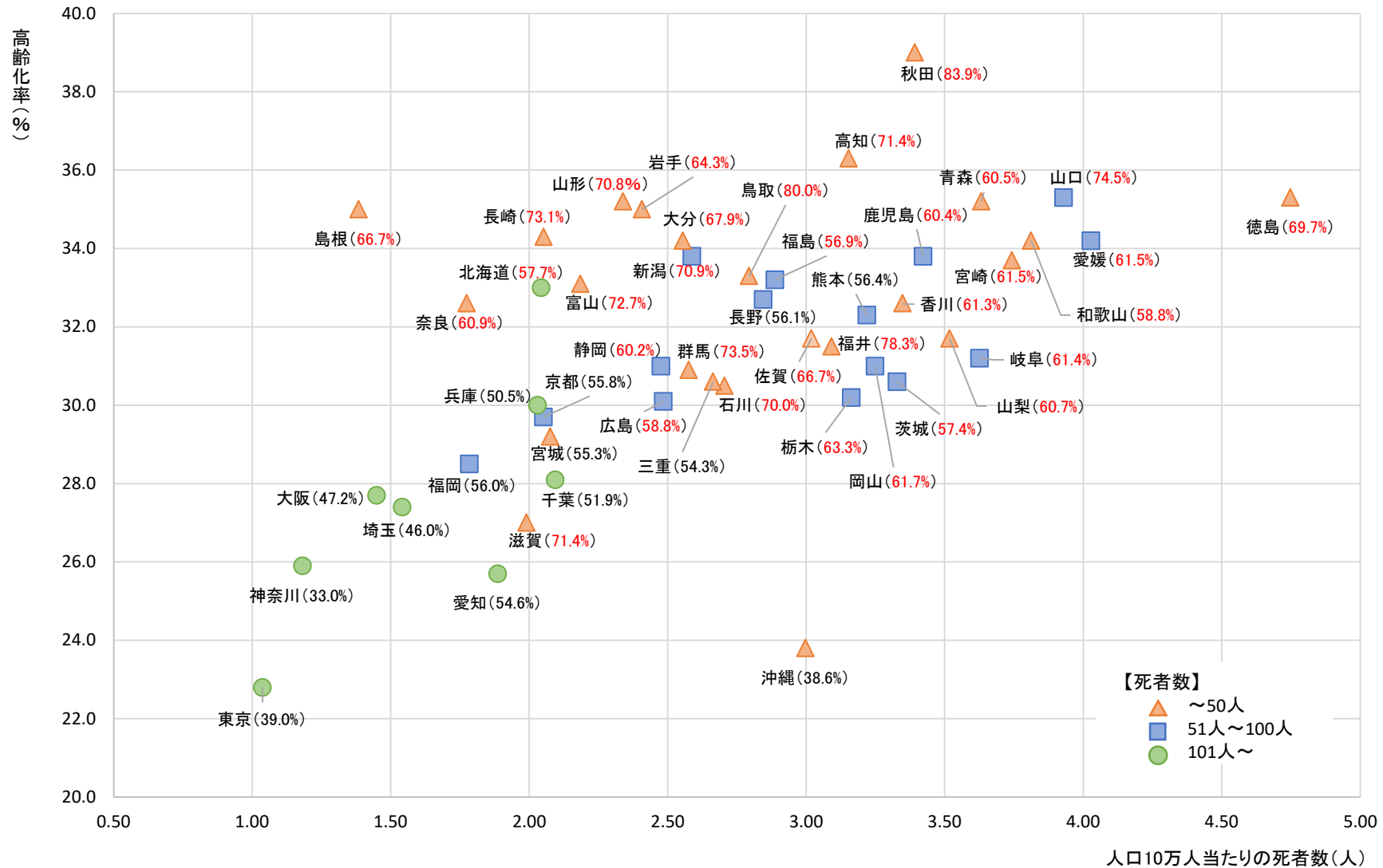
状態別死者数の推移



(注) ()内は全死者数に占める構成率であり、少数点以下第2位を四捨五入している。

〈参考〉都道府県別人口10万人当たりの死者数(令和6年)と高齢化率等

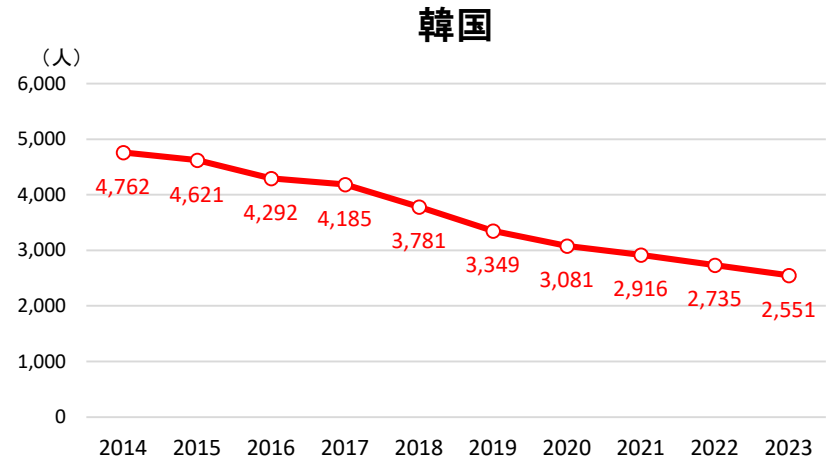
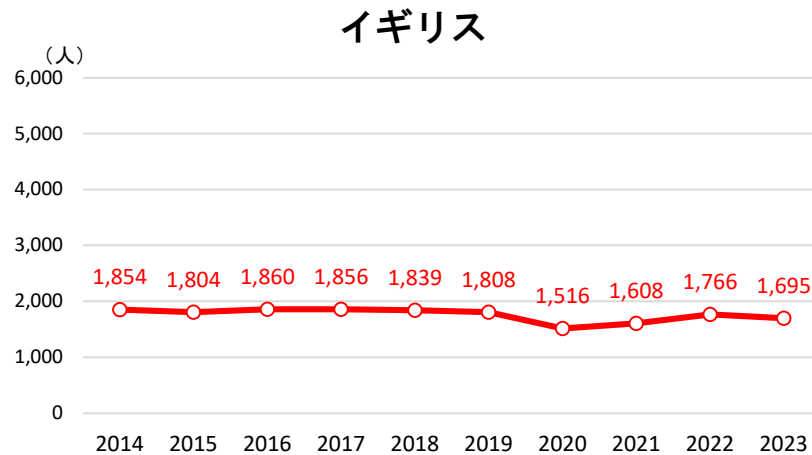
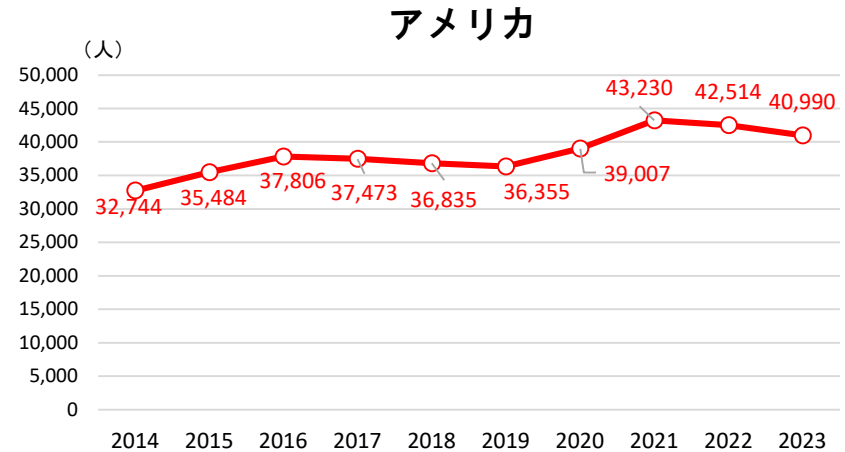
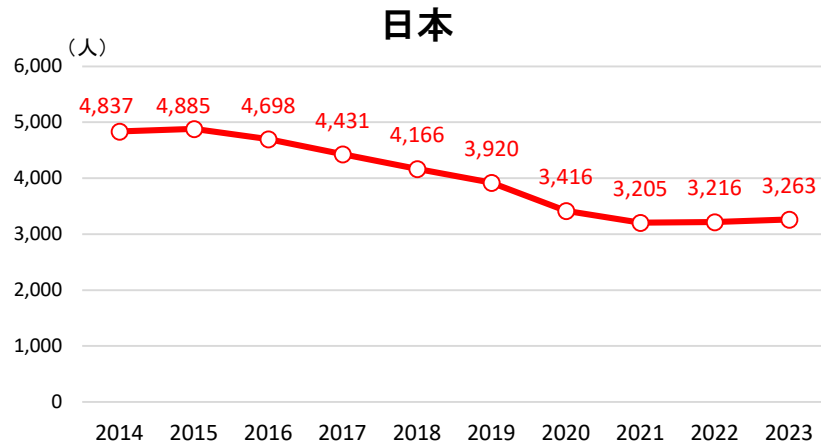
● 高齢化率が高い地域は、人口10万人当たりの死者数が多い傾向



(注) ・ 「高齢化率」とは、人口に占める65歳以上の人口の構成率をいう。
 ・ 「人口」、「65歳以上の人口」は、総務省統計資料「人口推計」(令和5年10月1日現在人口)による。
 ・ ()内は、各都道府県の死者数(令和6年)に占める65歳以上の構成率であり、赤色は全国平均(56.8%)よりも高いものを示す。

〈参考〉諸外国の30日以内死者数

- 日本の死者数は2年連続で増加
- アメリカの死者数は2020年から大きく増加したのち減少
- イギリスの死者数は2020年に大きく減少したのち増加
- 韓国の死者数は年々減少



〈人口10万人当たりの死者数〉

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
日本	3.81	3.84	3.70	3.50	3.29	3.11	2.71	2.55	2.57	2.62
アメリカ	10.29	11.07	11.70	11.53	11.27	11.07	11.77	13.02	12.76	-
イギリス	2.87	2.77	2.84	2.81	2.77	2.71	2.27	2.40	2.61	2.48
韓国	9.38	9.06	8.38	8.15	7.33	6.48	5.95	5.64	5.30	4.93

(注)・国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料(令和7年1月28日時点)による。

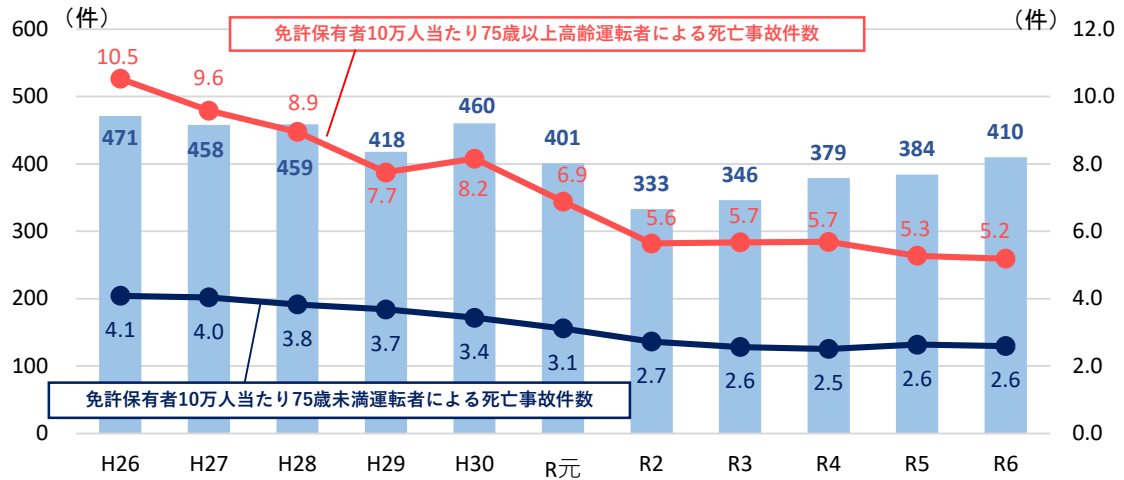
・死者数は30日以内死者数である。

・人口10万人当たりの死者数の算出に用いた人口は、日本については総務省統計資料「人口推計」(各年10月1日現在人口(補間補正を行っていないもの。ただし、国勢調査実施年は国勢調査人口による。))によるものであり、日本以外については国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料によるもの(アメリカの人口は2022年までが登録)である。

2 自動車～高齢運転者

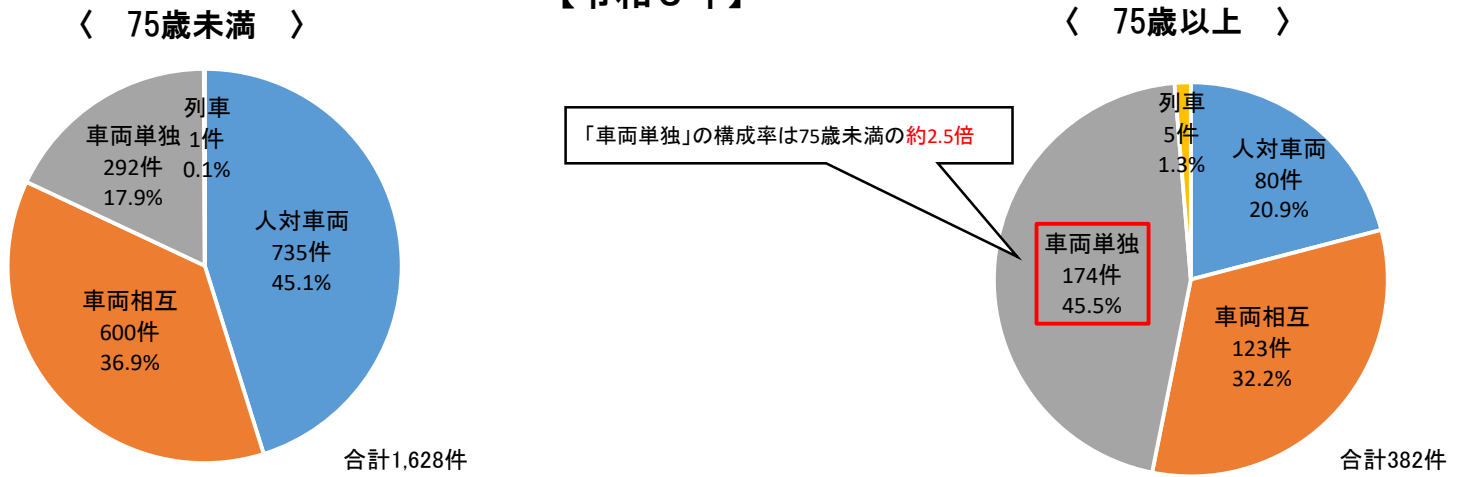
- 75歳以上高齢運転者による死亡事故は、近年増加傾向(免許保有者当たりでは75歳未満の約2.0倍)
- 「車両単独」事故の構成率は75歳未満の約2.5倍

75歳以上高齢運転者（一般原付以上運転）による死亡事故件数の推移



(注)・第1当事者が一般原付以上(令和5年は特定小型原動機付自転車を含む。)の件数である。
 ・運転者の年齢が16歳以上の事故について集計した。
 ・算出に用いた免許保有者数は、各年12月末の値である。

75歳以上高齢運転者（自動車運転）による事故類型別死亡事故件数【令和6年】

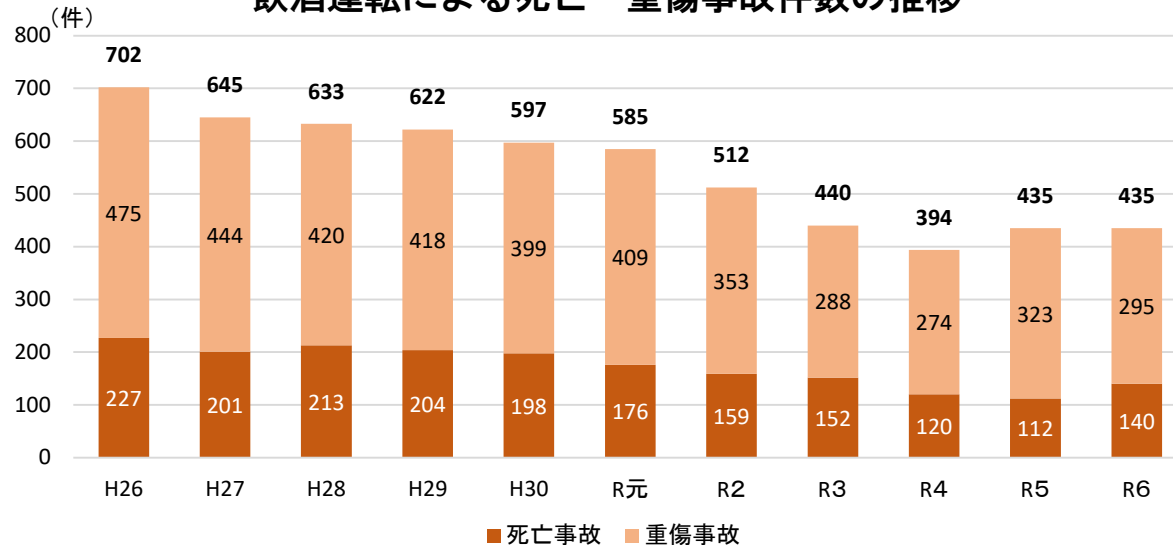


(注) 第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数である。

3 自動車～飲酒運転

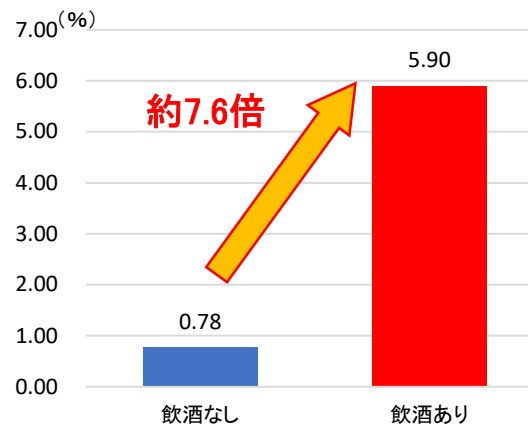
- 飲酒運転による死亡事故が増加（前年比28件、25.0%増）
- 飲酒運転の死亡事故率は飲酒なしの場合の約7.6倍

飲酒運転による死亡・重傷事故件数の推移



(注) ・ 第1当事者が一般原付以上(令和5年は特定小型原動機付自転車を含む。)の件数である。以下同じ。
 ・ 「飲酒運転」とは、運転者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当するものをいう。以下同じ。

〈参考〉 飲酒有無別死亡事故率比較
【令和2年～6年合計】

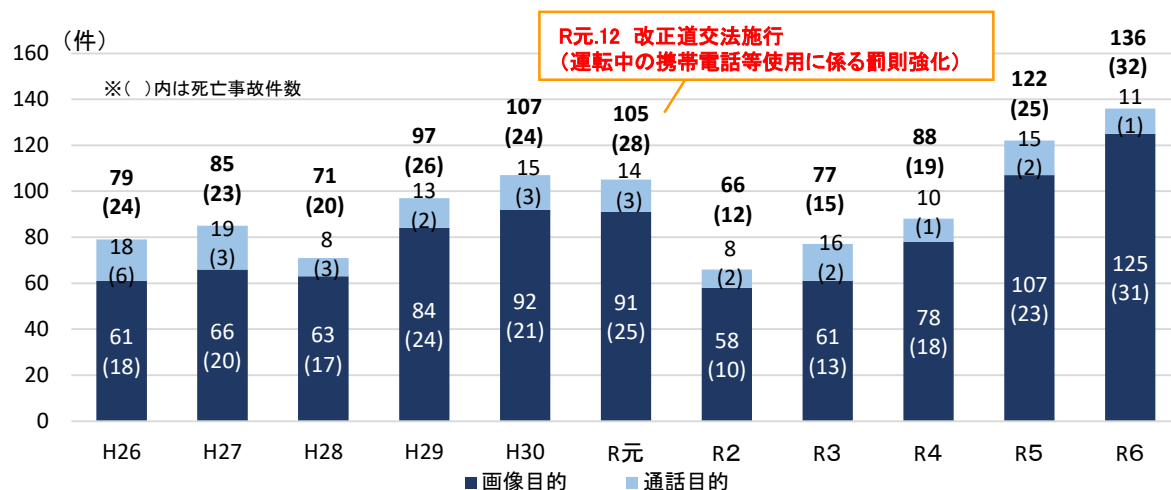


(注) 「死亡事故率」とは、交通事故のうち死亡事故の占める割合をいう。

4 自動車～携帯電話等使用

- 携帯電話等使用による死亡・重傷事故は、近年増加傾向
- 携帯電話等使用時の死亡事故率は不使用時の約3.7倍
- 年齢層別では、20歳代から30歳代が約5割

携帯電話等使用による死亡・重傷事故件数の推移



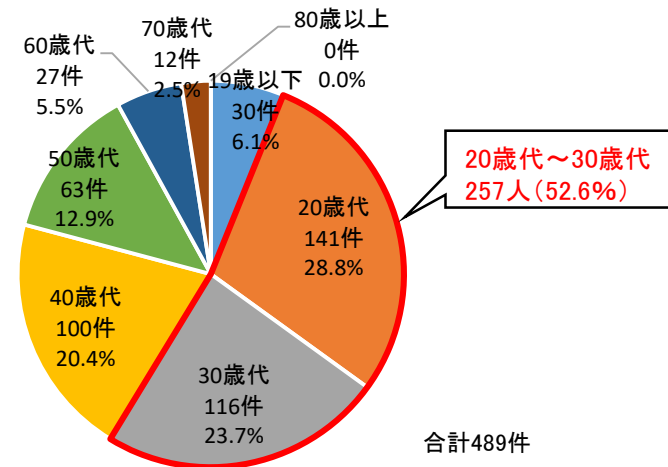
(注) ・第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数である。以下同じ。
 ・携帯電話、スマートフォン等の使用が要因となって発生した事故を集計した。以下同じ。

〈参考〉携帯電話等使用有無別死亡事故率比較
【令和2年～6年】



(注) 「死亡事故率」とは、交通事故のうち死亡事故の占める割合をいう。

〈参考〉運転者年齢層別携帯電話等使用による死亡・重傷事故件数【令和2年～6年合計】

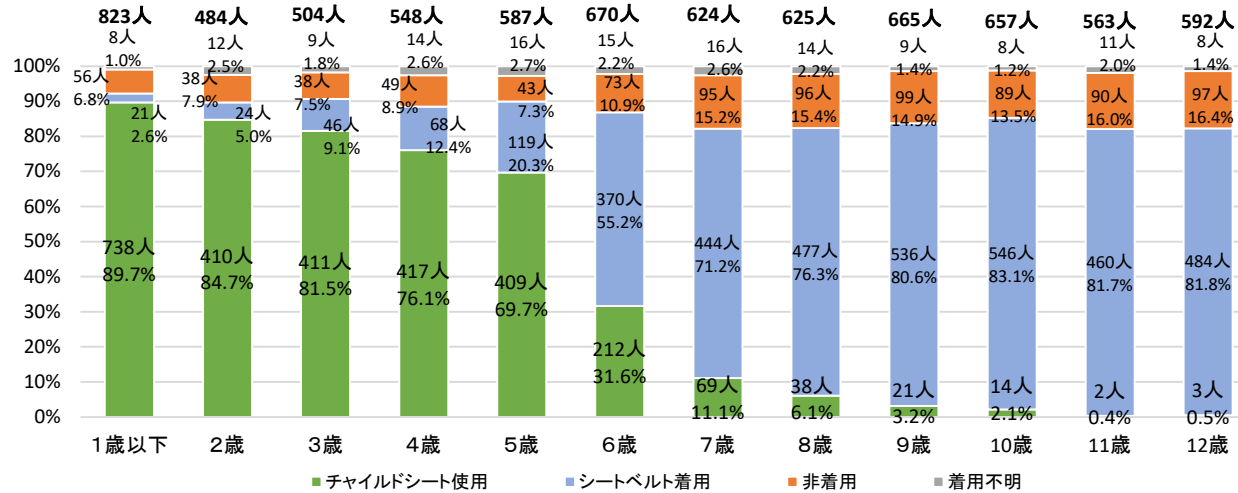


(注) 自動車運転者(第1当事者)の年齢層により区分して集計した。

5 自動車～チャイルドシート

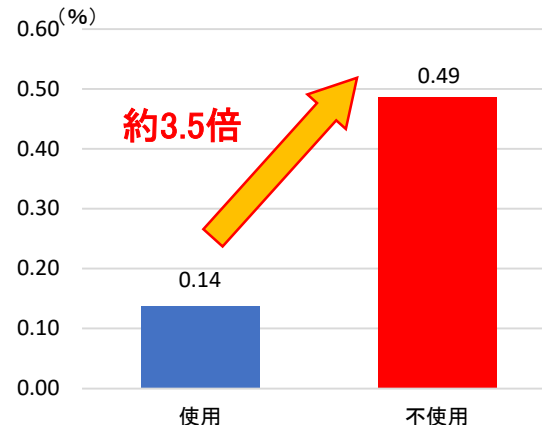
- チャイルドシート使用率は年齢とともに低下
- チャイルドシート不使用時の致死率は使用時の約3.5倍

自動車同乗中幼児・児童のチャイルドシート使用状況別死傷者数
【令和6年】



(注) 「幼児」とは6歳未満の者、「児童」とは6歳以上12歳以下の者をいう。以下同じ。

〈参考〉自動車同乗中幼児のチャイルドシート使用有無別致死率比較【令和2年～6年合計】

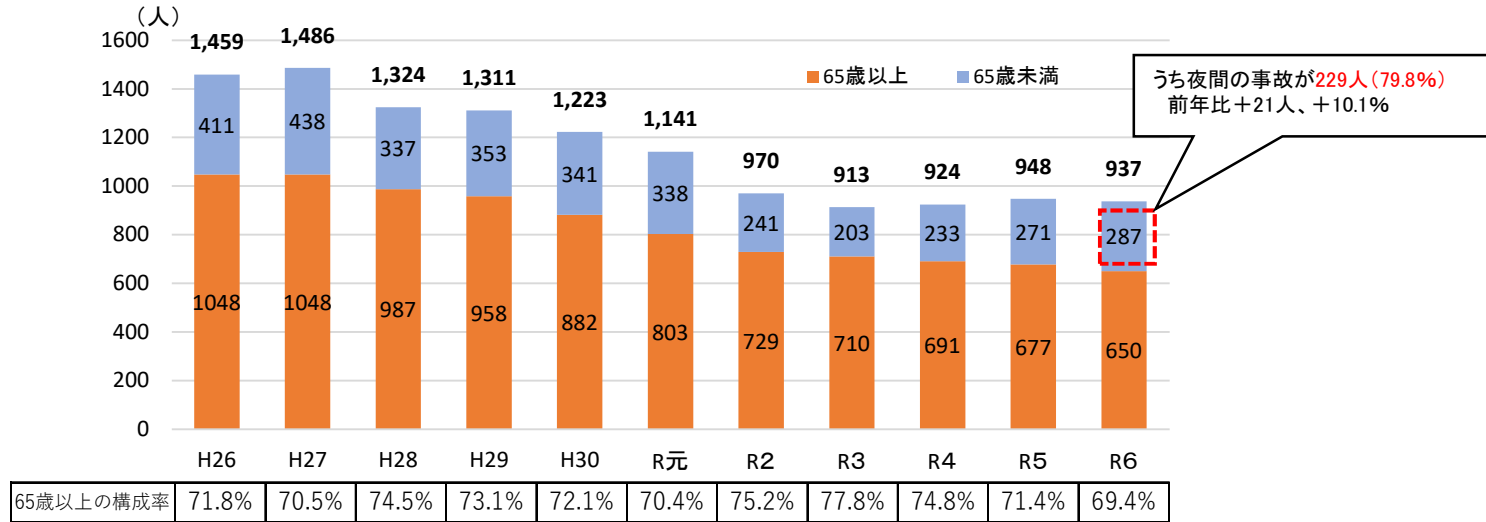


(注) ・ 「致死率」とは、死傷者のうち死者の占める割合をいう。
 ・ 「不使用」とは、シートベルトを使用していた者及びチャイルドシート・シートベルトいずれも使用・着用していなかった者をいう。

6 歩行者

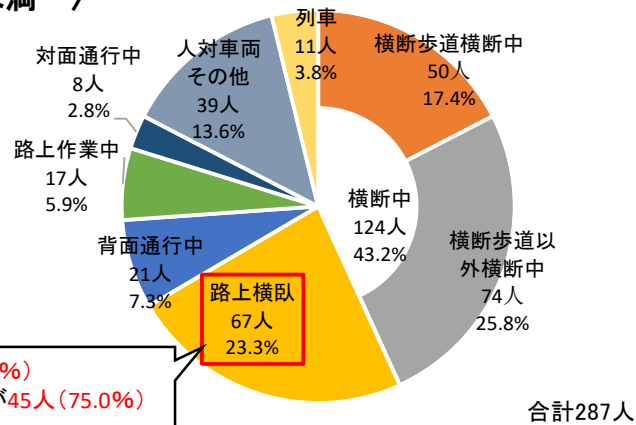
- 65歳未満の死者数が増加し、昼夜別では「夜間」が増加
- 事故類型別では、65歳未満は65歳以上に比べて「路上横臥」の割合が高い

歩行中死者数の推移（第1・第2当事者）



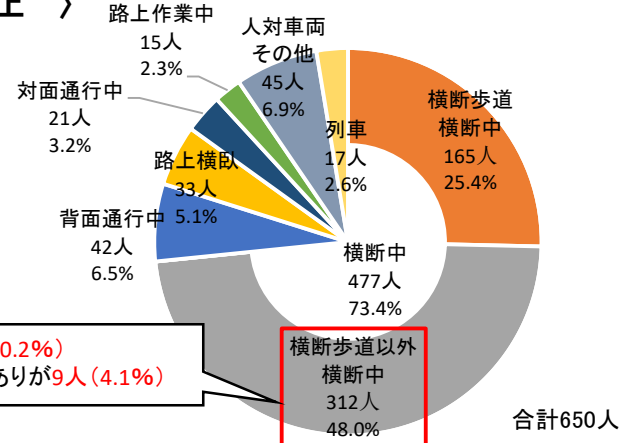
事故類型別歩行中死者数（第1・第2当事者） 【令和6年】

〈 65歳未満 〉



うち夜間が60人(89.6%)
夜間のうち飲酒ありが45人(75.0%)

〈 65歳以上 〉

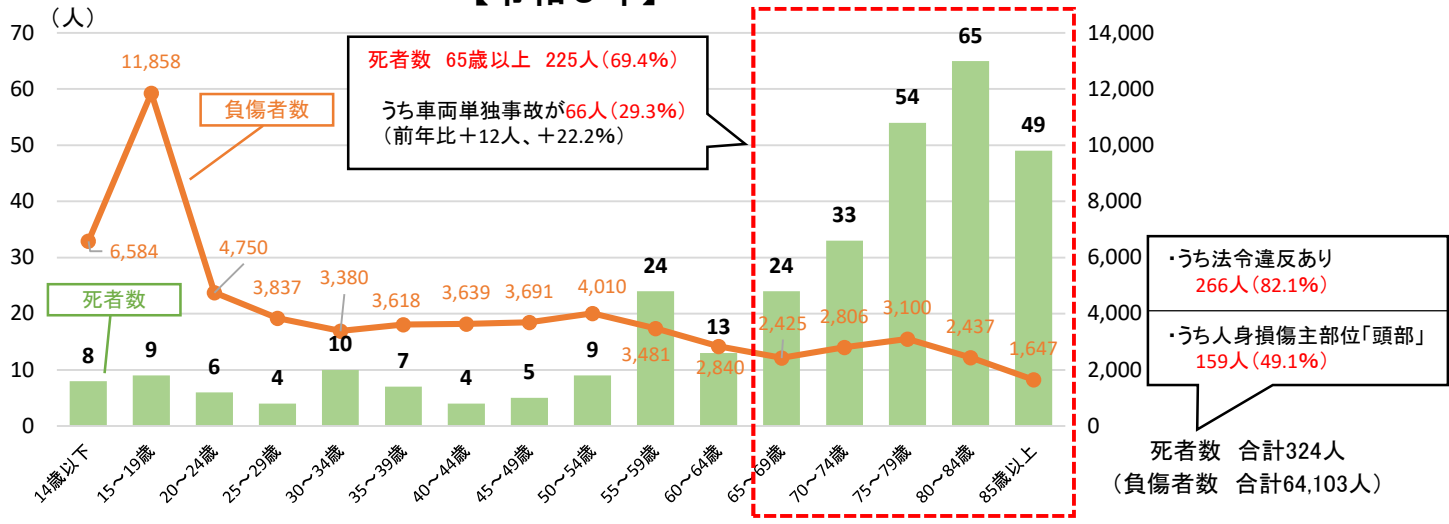


うち夜間が219人(70.2%)
夜間のうち反射材ありが9人(4.1%)

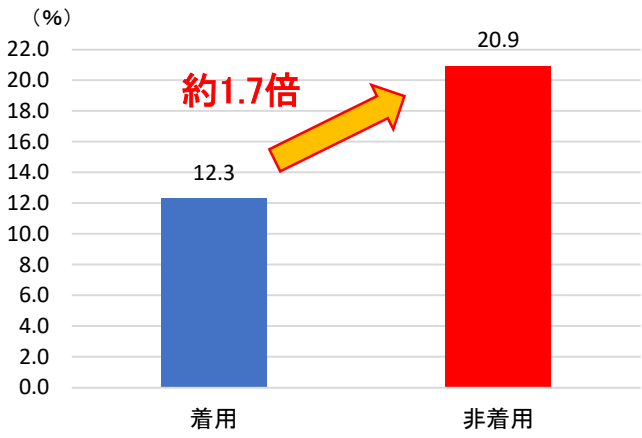
7 自転車～年齢層別死傷者数

- 自転車乗用中死者のうち65歳以上が約7割
- 自転車乗用中死者の約8割に法令違反あり、約5割が頭部負傷
- ヘルメット着用率は前年比で3.5ポイント上昇

年齢層別自転車乗用中死傷者数（第1・第2当事者）
【令和6年】

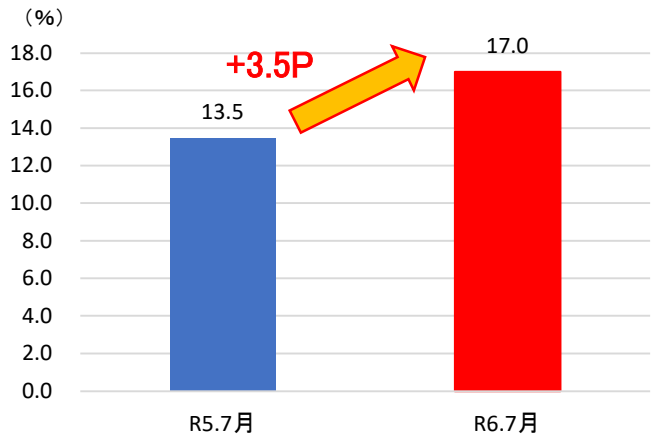


〈参考〉ヘルメット着用有無別人身損傷主部位「頭部」構成率比較【令和2年～6年合計】



(注) 自転車乗用中の死者・重傷者における人身損傷主部位が「頭部」であった者の構成率を比較した。

ヘルメットの着用状況（街頭調査結果）

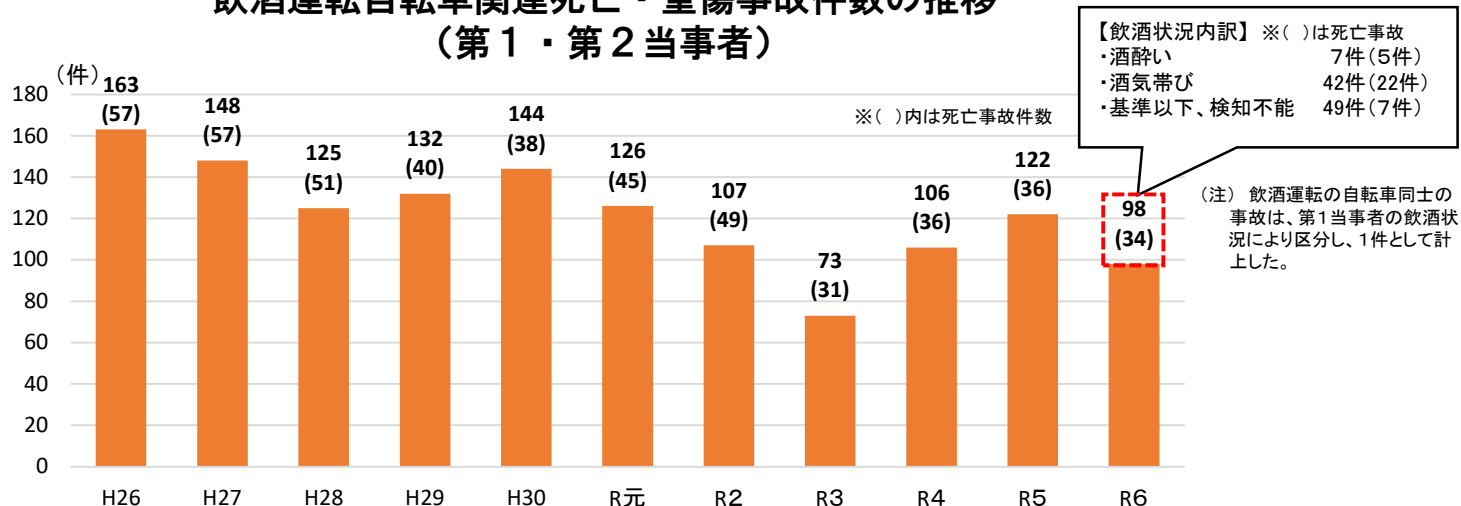


(注) 警察庁が47都道府県で実施した令和5年7月の調査結果と令和6年7月の調査結果を比較したものである。

7-2 自転車～飲酒運転

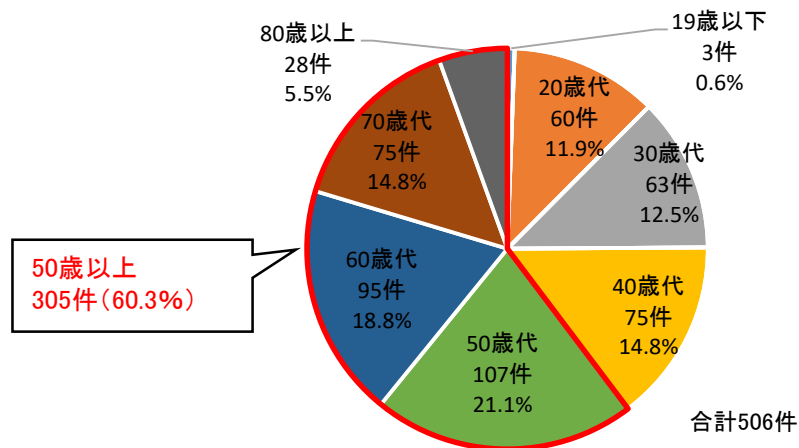
- 飲酒運転自転車関連死亡・重傷事故は、近年はほぼ横ばいで推移
- 年齢層別では、50歳代が21.1%で最多、50歳以上が約6割

飲酒運転自転車関連死亡・重傷事故件数の推移
(第1・第2当事者)



(注) ・ 自転車第1又は第2当事者となった事故のうち、自転車運転者が飲酒運転であった事故を集計したものであり、飲酒運転の自転車同士の事故は1件として計上した。以下同じ。
 ・ 「飲酒運転」とは、運転者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当するものをいう。以下同じ。

〈参考〉 年齢層別飲酒運転自転車関連死亡・重傷事故件数
(第1・第2当事者) 【令和2年～6年合計】

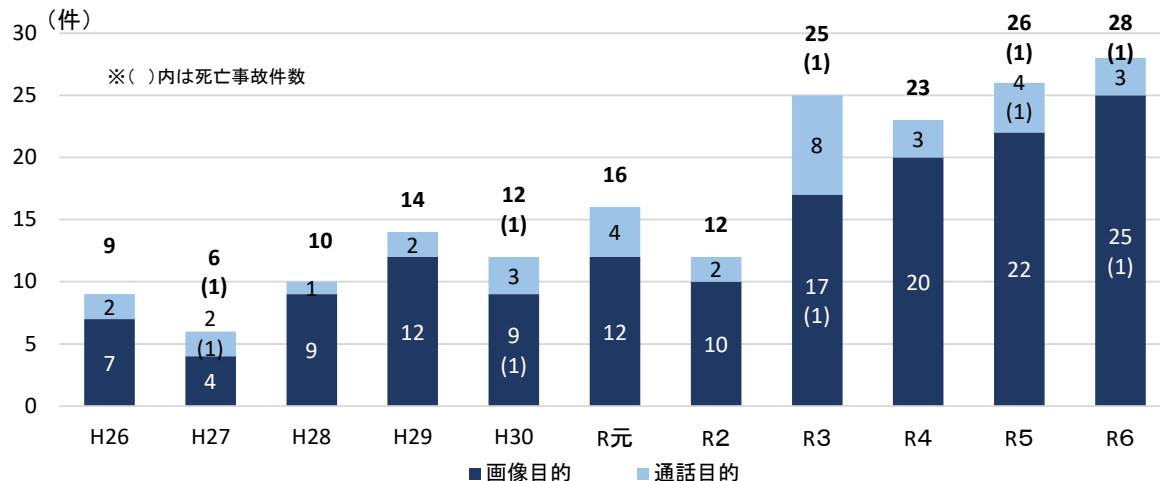


(注) 自転車運転者の年齢層により区分して集計したものであり、飲酒運転の自転車同士の事故は、第1当事者の年齢により区分し、1件として計上した。

7-3 自転車～携帯電話等使用

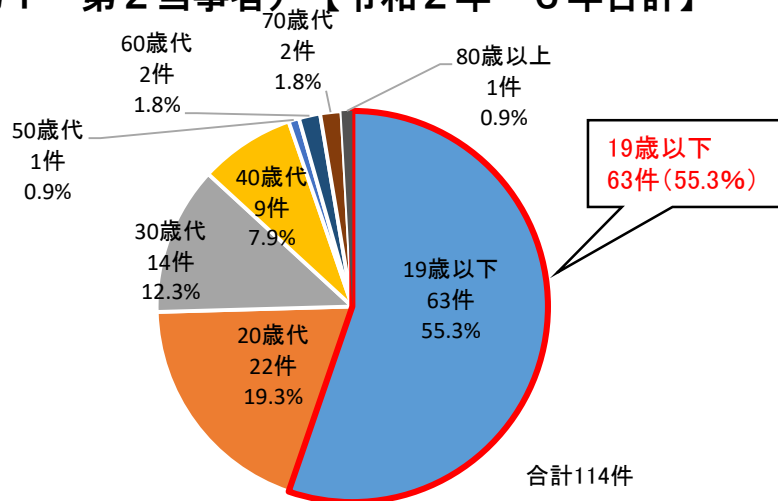
- 携帯電話等使用自転車関連死亡・重傷事故は、増加傾向
- 年齢層別では、19歳以下が約6割

携帯電話等使用自転車関連死亡・重傷事故件数の推移
(第1・第2当事者)



(注) 自転車第1又は第2当事者となった事故のうち、自転車運転者の携帯電話、スマートフォン等の使用が要因となって発生した事故を集計した。以下同じ。

〈参考〉年齢層別携帯電話等使用自転車関連死亡・重傷事故件数
(第1・第2当事者) 【令和2年～6年合計】



(注) 自転車運転者の年齢層により区分して集計した。